

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所りんごの花		
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		～ R7年12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45名	(回答者数) ●●名
○従業者評価実施期間	R8年2月16日		～ R8年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職、常勤職員が揃っていて、質の高い療育を提供できる体制がある。	・プログラムの立案、活動の振り返り、子どもの見立てなど、各専門性を活かした視点で意見を聞くようにしている。・最終的に各職員の意見を取りまとめ方向づけをすることで、支援における共通認識に繋げている。	・話し合いの時間の確保が難しい点が課題であるため、各業務内容やそれに伴う時間配分等を検討していく。
2	少集団の療育を実施しており、プログラムの中に、集まり、活動、自由時間を組み込んでいることから、集団での困り感に向けての支援を取り入れやすい。	・集団のなかで安心や楽しさを感じながら過ごす、自己肯定感を高める、困ったことを発信する力をつける、など、子どもの力を引き出す、伸ばすことで、集団の中での課題をカバーできる支援を心がけている。・リーダーとサブ職員の役割、動きを確認しながらチームとして支援にあたるよう努めている。	個々の子どものニーズに向き合いながらも、集団としてまとまる環境づくり、関わりを行っていく。そのために、療育の方向性、各職員の役割などを確認し合い、チームとして支援にあたる。
3	・保育所等訪問支援事業を行っているため、利用されるケースでは、通園先での様子などを共有することでより良い支援に繋がる。	・モニタリング会議で、事業所、通園先での様子などを共有している。また、気になる様子などがあれば、その都度、訪問支援員と情報共有を図っている。・情報を共有しやすいように、同じ個人ファイルに双方の情報をまとめている。	・子どもの見立てや通園先、保護者様への助言など、見解や方向性の違いがでないように、双方で情報を適切に整理して支援に繋げる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・室内環境の関係で、粗大運動における、基本的な体作り、感覚統合、発達性協調運動障害等への支援を実施しにくい。	・環境的に、吊り下げ遊具の取り入れが難しい、運動器具を補充する場所、設置する場所が限られている。	・環境を大きく変えることは難しいため、限られた環境の中で、必要な支援に繋がる運動器具の使用、活動の立案を実施していく。 ・子どもの様子に応じて、医療機関のOT療育など、事業所以外での支援も提案していく。
2	ST、PT、保育士、各専門職の知識や強み、分析力等を療育の質の向上、職員の質の向上に活かしていく体制を強化したい。	日々の業務で時間に余裕がない、非常勤職員の勤務時間の差が大きな要因である。限られた時間のなかで、日々の実質的なサービス提供時間(その準備も含み)、相談、連携等の不定期に入る事項への対応時間、定期的な会議(モニタリングなど)の時間などで、時間の余裕がない。	日々の業務において、質を落とさずに簡素化できることがないかを見直すと共に、月に1回など確実に実施する時間を設けるなど、確実にできることからコツコツと積み重ねていくなど、体制作りを図る。
3	開所し1年半のため、改善や検討が必要な事項が出ている。敏速な対応に努めたいが、難しい課題も多い。	・より良くを目指すかゆえに、課題と感じる点が多くなっている面もある。・環境やマニュアルを整備することで解決しやすくなる課題もあるが、その整備にあてる時間を作るのが難しい。	・優先順位をつけ、1年スパンの中で一つ一つ検討、改善していく。